

2008年度 慶應義塾派遣交換留学制度促進奨学金

小尾 晋之介（国際センター所長）

イギリス シェフィールド大学 

桐谷 純子 健康マネジメント研究科医療マネジメント専攻2年
イギリス パーミンガム大学

派遣生としての権利を獲得するまで、そして留学生活において自分が吸収したものを含め、この交換留学という機会が自分にとってどれほど影響力のあるものであったか、それを通じてどれほど自分が変わることができたかを証明するのはほかでもない、今後の私自身であると確信している。経験したことを生かし、自らを成長させていく。9カ月という濃密な時間を無駄にしないための最善の道ではないか。その意味で、私の交換留学はいつまでも終わることはないと思う。

ノルウェー ベルゲン大学 

スウェーデン ルンド大学 

ドイツ ジーゲン大学 

永野 将虎 法学部政治学科4年

派遣先：イタリア ベネチア大学

「超充実」。留学先での一年間はこの言葉に尽きます。それは、五感のフル活用を心がけてきたからです。現場や現物などのリアルに触れて、そこで得た実感を信じて自分の考えを実行に移す。今回のベネチア留学はそのような探究心、「Chase the Real. Feel the Real」の精神を磨く絶好の機会でした。

須藤 絵夢鈴 法学部法律学科3年

派遣先：フランス パリ政治学院

パリで過ごした1年間は、私にとって貴重な経験になったことは言うまでもない。とくに新しい環境で新しい角度から自分自身と向き合うことができ、「厳しい環境の中でもあきらめない勇気」の重要性を確認できたことは大きな収穫だった。

フランス ESSEC経済商科大学院大学 

福住 彩 文学部人文社会学科4年 派遣先：アメリカ ウィスコンシン大学マディソン校

日本人としていかに国際社会に貢献できるか、自問自答を繰り返してきた。異文化間の交流と衝突を知るため、「日本」を外に発信するため、私は交換留学を決意した。そして留学中、いかなる逆境や困難に直面しようと、自らの機能や知見を駆使しながら地道な努力を積み重ねていくことで壁を乗り越えた。

豊田 純平 経済学部経済学科3年

派遣先：アメリカ ワシントン大学

私には、世界中のどこに行っても現地のニーズを把握できる一流のマーケッターになるという夢があります。交換留学をするまでは遠く及ばないと思っていた夢でしたが、実際に世界各地からの学生と交流し、私とは全く異なる価値観に触れることで、私はその夢に大きく一歩踏み出すことが出来ました。

樋口 一登 経済学部経済学科4年 派遣先：アメリカ カリフォルニア大学ロサンゼルス校

（アメリカでの留学を通じ、）他の人の考え方を尊重し、友人関係の大事さにも改めて気付きました。このことが留学前に多様な人種、多様な考え方をもちた人の中で生活することで何かを得たと思っていたことへの回答であったと思います。

慶應義塾派遣交換留学制度促進奨学金

慶應義塾派遣交換留学制度促進奨学金は、2007年度派遣交換留学生で帰国した者（104名）を対象に募集されました。派遣先大学での成績表とエッセイ（A4用紙5枚以内）を基に選考され、応募者数41名の中から20名に奨学金10万円が授与されました。

宮城 杏奈 経済学部4年

派遣先：カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学

私はこの派遣交換留学により、農業経済学の専門知識を深め、国際感覚を養い、語学力を鍛えることができた。このような機会を与えられたことがどれだけ恵まれていることが深く自覚し、今後は国際社会の発展、特に途上国農村における貧困削減に貢献できるよう努力していきたい。

水谷 祐樹 理工学部システムデザイン工学科3年

派遣先：カナダ マギル大学

留学の目的は、留学での経験をその後に活かすことだと思う。日本を離れて見たこと、学んだこと、感じたこと、すべてを自分の糧にして、留学をゴールではなく、新たなスタート地点に設定しなければいけないのである。

金元 真希 総合政策学部総合政策学科3年

派遣先：香港中文大学

留学を通じて5つの教訓を学んだ。

1. 目的を達成するためには、頑固にならず柔軟に考えること。
2. コミュニケーションは"can"ではなく"will"で決まる。
3. 周りの人々への感謝の気持ちを忘れない。
4. 異文化を受け入れて自分の視野を広げる。
5. 幸せは経済的な尺度のみで図ることは出来ない。

廣瀬 裕子 経済学部4年

派遣先：アメリカ カリフォルニア大学バークレー校

「あなたは人生の瞬間瞬間を、何のために費やしますか。」バークレーで常に問われてきたこの問いに対して、（中略）たとえアプローチは変わったとしても、私の人生の中で何より大切なことはこの問いと向き合い、意識しながら人生の瞬間瞬間を重ねることだと思う。どのような環境にいても、そこでの新たな出会いから学び、自分自身のPRAXIS（実習、応用）につなげることを意識したいと思う。

永井 駿太 法学部政治学科3年

派遣先：アメリカ ボストン大学

交換留学を通じて、「夢は少しずつ叶うからあきらめないで頑張る。そうすれば、なるようになる。」という事を改めて感じました。なるようにするために、これからも大きな希望を実現するためのプロセスを考え一つずつ実現していきます。

林 藤彦 法学部政治学科3年

派遣先：アメリカ ジョージタウン大学

交換留学は今もなおあらゆる点において私に大きな影響を与えています。（中略）私の勉強机の前に貼られた留学中の写真は常に私にそれを思い出させ、今日私のエネルギーの源のひとつとなっています。今後とも自分に満足することなく常に高みを目指し、世界で戦いたいと考えています。

石見 英里奈 法学部政治学科4年 派遣先：アメリカ カリフォルニア大学ロサンゼルス校

不安と期待を胸に渡米してから早1年半、留学を終え、留学先でのことを振り返ってみると、私の留学生活は出発前の私が抱いていた期待を裏切ることなく、実に様々な経験と勉強に満ち溢れていました。そして、私は自信を持って「自分は成長した」と言えるほど密度の濃い時間を過ごすことが出来ました。

岡 望美 商学部4年

派遣先：アメリカ イリノイ・ウェズリアン大学

「学問に入らば大いに学問すべし。農たれば大農となれ、商たれば大商となれ」福沢諭吉先生の名言である。私はこの言葉を、やると決めたことはとことんやり、極めるべきである、と解釈している。（中略）私は派遣先での9カ月を一日たりとも無駄にせず、とことん充実した毎日を通して、結果として、多くの人はあつという間であったと感じたであろう留学生活は、とても長く、今後の私の人生においても糧になるよい経験となった。

加根魯 純子 環境情報学部環境情報学科3年 派遣先：アメリカ カーネギーメロン大学

塾派遣交換留学生としての1年間、大変なことがなかったといえばもちろん嘘になる。しかし、この経験を通して培った知識、人間関係、そしてメンタリティーは一生の財産だ。毎日が新しい発見であり、「成長できた」と自信を持って言える。長いようで本当に短い、しかし多くの可能性を与えてくれた充実の1年だった。

